

蔵前人の キャンパス ライフ

金沢工業大学 副学長
(教育点検評価支援担当)
環境・建築学部 教授

久保 猛志

(S43 建 S45 修建 S50 博建)



1. 金沢工業大学での30年

筆者が金沢工業大学にお世話になったのは、1979年4月である。当時は開学15年を迎えるころであり、大学院の充実に向けた取り組みを始めたばかりであった。着任した年には19名の卒研生が殺到し、リソースとしては人しかない状況でのスタートであった。学生諸君の柔軟な思考力と発想、旺盛な行動力を最大限に活用するしか対応は思い浮かばなかった。そのため「建築や都市環境を考える」という大きな枠組みは提示したが、学生諸君一人ひとりの興味に応じて、テーマの設定からデータの収集や調査方法の検討、研究の進め方など、1週間に数回は学生諸君と真夜中近くまで議論しあって決めたものである。この形式はその後の研究室の運営でも踏襲してきており、現在まで続いている。研究に近い取り組みを通じて学生諸君の成長を促してきた、教育としての面が強かったと自認している。

1980年4月からは、大学院も担当することになったが、同時に建築学科の教務委員も務め、カリキュラム改正等に取り組むこととなった。その後、1984年4月から1989年3月までは学科主任や学系主任を務め、専ら建築学科の教育運営に携わってきた。

1992年4月から教育改革検討委員会、1994年4月から教育改革実施委員会の委員を務め、これらの成果を受けて1995年4月から、全く新しい教育システムが開始された。1997年4月からは工学実技教育副主任・工学設計教育コア主任として工学設計教育を新しく立ち上げるとともに、工学基礎実技教育の改革と充実に関わってきた。その後、2002年4月には教育点検評価委員会委員長、2004年4月には教育点検評価部長、2010年4月か





ライブラリーセンター

こともあり、筆者の30有余年の大学での活動も、教育面に重心を置いたものとなっている。

2. 金沢工業大学の教育

金沢工業大学は、1965年2月に建学の綱領を「高邁な人間形成」「深遠な技術革新」「雄大な産学協同」と定め、爾来、これを三大旗標として掲げ、「日本人としての誇りと確固たる精神を矜持し、国際社会に寄与し得る人材、次代の技術革新を担い得る人材、そして人類の豊かな発展を継承し得る人材の育成と産学一体の学術研究」を目指しており、学生・理事・教職員が三位一体となり、学園共同体の理想とする「工学アカデミア」の実現に向け、三大建学綱領の具現化を行い、社会から信頼され、社会に貢献する大学を目指し充実した教育、研究、サービスを展開している。

1973年度以降、第2代学長京藤睦重のリーダーシップのもと、さまざまな自己改革に取り組み、「学生一人ひとりの個性を輝かせ、一人前の社会人にする」と目標にした数々の施策を、「教育付加価値日本一」を目指す取り組みと位置づけて、実践してきている。1995年度には、3年間の準備期間を経て、大規模で全学的な教育改革を実施し、現学長石川憲一のもと、「知識偏重から知恵の重視」する教育実践の創意工夫と「自ら行動する技術者の育成」を実践目標とする教育を展開している。

筆者もこの計画に携わった一人であるが、その方向性は、学習意欲の触発と増進、伝達すべき知識の量の精査、伝達すべき知識の質の精査、数理工基礎・専門基礎の重視、教育組織の再構成、教

育方法は改善であり、具体的な取組みとして、工学設計教育を主柱としたカリキュラム構造、修学基礎教育、人間形成基礎教育、数理工基礎教育、専門基礎教育、専門コア教育、3学期制による授業運営、3単位科目（講義＋演習）、修学能力育成（1週間の行動履歴＝ポートフォリオの作成等）、学修支援計画書（シラバス）等々を導入し、解が多様な問題に取り組むことができる、個々の知識を集約して問題解決のために活用することができる、新しい課題を探索し創造的に見出していくことができる、確かな人間性を発揮することができる人材の育成に取組む体制を構築している。

1995年度に工学部、11学科、33専門コアカリキュラムでスタートしたが、技術者として活躍する分野の拡大に応じて、2000年度には7学系、13学科、35専門コア体制に、2004年度には、技術者として活躍する分野を明確にした3学部、15学科、34専門コア体制に移行し、工科大系単科大学から工科大系総合大学へと発展してきた。更に、2008年には、技術者の活躍する分野が必ずしも従来の工科大系に限定されなくなったことから、工学部、情報フロンティア学部、環境・建築学部、バイオ・化学部の4学部、14学科体制とし理工系総合大学の体制を整えている。2012年度からは、この体制のもと、更なる見直しを行ったうえで、新しい教育カリキュラムを実施している。

ら、副学長の立場で、内部質保証への取組みを含めた教育点検評価の実施並びに支援を担当することになり、現在に至っている。

3. おわりに

3. おわりに

筆者自身は年齢的なこともあり、直接的に関与することは難しいが、金沢工業大学が、今後も、教育大学として更なる取組みを充実させ、建学の綱領を具現した「自ら考え行動する技術者」を輩出しつづけるために、常に改革を進めていくユニークな大学として輝き続ける大学であることを願っている。



自習室でのチーム学習